

川上あさえ新聞

Vol.14

2023年第3回
定例会報告

芦屋市議会

〒659-8501
芦屋市精道町 7-6

NeXT 芦屋

現場目線で市政改革



元産経新聞記者

物価対策に支援

福祉関連団体、施設に対し物価高騰対策として支援を行います。こども食堂、地域食堂を実施している民間団体に対し、1団体当たり

り25万円を上限に活動経費として支援を行います。また、障がい者福祉サービスを行う施設（定員30人未満）に100万円、老人福祉施設（同）に200万円などを支援します。

若者の政治参加を

史上最年少となる26歳の高島峻輔市長が初当選した今回の統一地方選挙。全国的な注目を集めたこともあり、市長選の投票率は55.1%と2019年市長選（48.69%）と比べ6.42%も上昇しました。多くの若年層が投票所に足を運んだものと思いきや、市選挙管理委員会によると、3歳未満の若年層の投票率は3割に満たないものでした。未来を担うべき若者の社会・政治参加の意識向上を促す取り組みが必要で、本会議で高島市長に意見を求めたところ、「若者との議論の場を設け、提言を実現する仕組みづくりをサポ

ートする」と答弁しました。芦屋の将来に関心を持つ若者が増え、魅力的な街づくりにつながることを期待します。

30歳未満の投票率3割弱

最年少市長誕生も



市選管は「年代別の投票率は期日前投票から推測するしかない」としたうえで、期日前投票の全世代平均19.2%と比べ、若年層は3分の1から2分の1程度。結果的に若年層の投票率は3割に満たないことが分かります。高島市長は「自分の声で社会を変えることができる」という成功体験こそが今後の政治行政の関心につながる」と述べ、取り組みに意欲を示しました。

「社会を変えること」。これは若者の大きな特権の一つでもあります。道のりは遠いですが、社会のさまざまな事象に関心を高め、変化を促す若者の育成に導きたいと思えます。



市議会議員選挙、市長選挙（4月23日投票）を経て、初の定例市議会が開催されました。私も2期目の当選を果たし、5人

の議員とともに新会派「あしや政風会」を結成。JR芦屋駅南口再開発事業などを扱う建設常任委員会に所属することになりました。今回は初当選した高島峻輔市長に対しての一般質問などを中心に報告いたします。

住環境の充実 前進

マンション管理条例制定へ

住宅都市と呼ばれる芦屋市ですが、居住形態を分析すると、分譲マンションの比率が全国トップクラスの35%。マンション管理をめぐる施策は最重要の政策課題となっています。一方、深刻化しているのがマンション老朽化に伴う、管理不全や管理組合をめぐるトラブルの増加です。市に対してマンション管理をめぐる施策の必要性を提言し、条例化を目指すとの答弁を得たことで、住環境の充実に向けた具体策が実現する運びになります。条例化が実現すれば県内初で、全国的にも先進的事例となります。



分譲マンションの居住率は全国トップクラスだ

国全体で見ても築40年超の高経年マンションが10年後には2.4倍、20年後には4.5倍となり、管理不全に陥るマンションの急増は必至です。本市においても深刻な状況になる前に市としても手を打たなければなりません。一般質問では本市の分譲マンションの現状と課題について質し、市は「分譲マンションの管理状況を把握する仕組みが必要。今年度中にマンション

管理条例の制定を目指す」との姿勢を示しました。市によると、市内の分譲マンションは419棟で、そのうち築40年超は105棟で、10年後には222棟、20年後には342棟となる見込みです。2020年に改正されたマンション管理適正化法では、適正にマンション管理が行われているかを行政がチェックし、助言指導を行うことを求めています。本市としても積立金などの管理計画の届け出を義務化することなどを盛り込んだ条例化を目指す方針で、住民の資産価値向上につなごうと検討中。また、高経年マンション共有部のバリアフリー化補助や空き家活用支援を一元的に対応できる窓口の設置も進めるとのことです。同様の条例は東京都区内をはじめ約10自治体で施行されていますが、県内では初。先進的な事例を発信し、住宅都市として本市の優れた住環境をアピールする契機にもなるはずと期待しています。

LINEと連携 人工知能が回答

行政サービスの手続きや問い合わせにAI(人工知能)が回答するサービス「AIチャットボット」。芦屋市においても今年3月末からホームページを通じて運用が開始されています。市職員への問い合わせ対応や電話対応の削減につながり、効果に期待が寄せられています。

さらなる利便性向上策として通信アプリLINE(ライン)との連携を提案したところ、早速実現。業務改革と市民サービス向上の両立



LINEと連携した本市のチャットボット

ライト坂事故を抑止

県道奥山精道線(ライト坂)で重大な交通事故が相次いでいます。芦屋警察署によると、ここ5年間で7件もの事故が発生。いずれも急な下り坂でブレーキが過熱する「フェード現象」が原因としています。エンジンブレーキや低速ギアの活用で防ぐことができることから、路面に注意を促す表示や看板設置、防護柵の早急な整備を行っています。市県に対し抜本的対策と啓発強化を求めてまいります。

市監査委員に選任

市議会の同意を得た上で、市監査委員として高島峻輔市長から選任されました。芦屋市における監査委員は阿部清司弁護士と私の2人で構成されており、市長から職務上独立した執行機関の一つです。市の財務・事務の執行が法令に従って適正に行われているか、市民の福祉増進のため、最小の経費で最大の効果を挙げているのかなど市全体の事業が合理的かつ効率的に行われているかをチェックする役割を担っています。

スマホでお手軽 情報取得

を図っていききたいと思いま

す。チャットボットとは「チャット(会話)」と「ロボット」を組み合わせた造語で、AIを活用した自動会話プログラムです。運用開始以降、2カ月間で3457件の質問を受け付け、回答の満足率は91.4%。主な質問は、「転入の手続き」「ゴミの分別」などです。ラインとの連携でスマートフォンからより手軽に利用できることが可能になりました。

他の自治体では、災害時の罹災証明書発行や生活再建資金について回答するという使われ方をしており、さらなる検討が必要です。

一方、「チャットGPT」をはじめとする生成AIの活用については、「業務効率化や情報収集に役立つ」としながらも、「個人情報などの流出が懸念される」として、活用には慎重な姿勢を示しています。



散策可能になった南芦屋浜護岸

南芦屋浜護岸 散策が可能に

昨秋から試験開放が実施されていた南芦屋浜護岸は、一部エリアは釣り用に開放する一方で、それ以外は閉鎖されました。マナー問題解決とともに、段階的な開放を求めてきましたが、8月からは釣りエリアと散策エリアに分割できるよう、状況を見ながら注視して

いきます。

1・1キロの南護岸のうち、これまででは東側約530メートルを釣り用に開放し、それ以外は閉鎖していました。試験的に10月初旬まで、「釣りができるエリア」「釣り不可で散策可能なエリア」に分けることにします。釣り人の背後を歩くのが危険に感じるケースがあるため、エリア分割することです。開放時間は午前8時〜午後8時。

ただしマナー悪化の場合には閉鎖も想定されます。引き続き潮芦屋ビーチのスポーツ利用についても早期実施を求めてまいります。

編集後記

「花に嵐のたとえもあるぞ、サヨナラだけが人生だ」。大学時代に通い詰めた喫茶店の片隅に掲げられた井伏鱒二による漢詩の訳文で「人生は別れの連続だ」ということを示したものだ。1期目の4年間、多くの出会いがある一方でコロナ禍において、ひっそりと鬼籍に入った恩人もいた。どんな出会いがあっても最後には別れが待っている。世話になった方々の顔を思い出しながら、初心に戻り、緊張感を持って2期目に臨みたい。



【川上朝榮プロフィール】

1973年12月生まれ、49歳。妻と娘2人の4人家族。岡山白高を経て学習院大経済学部卒。産経新聞に記者として入社、内閣府など政治経済の現場を取材。著書に「関西企業大研究」「達人の世界」。社会福祉法人「尚紫会」理事。社会福祉主事、介護職員初任者。趣味はテニス、スキー、高校野球観戦。



Facebook



X(Twitter)

e-mail : kawakamiasae@gmail.com HP : https://kawakami-asae.com



事務所を開設

「川上あさえ事務所」を開設いたしました。ご連絡の上、お気軽にご訪問下さい。

川上あさえ事務所
〒659-0024
芦屋市南宮町2-20
TEL 050-3395-5027
FAX 050-3457-4872